

デジタル化推進特別委員会記録

令和5年9月21日

【開催日】 令和5年9月21日（木）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前8時30分～午前8時48分

【出席委員】

委員長	伊場 勇	副委員長	恒松 恵子
委員	白井 健一郎	委員	藤岡 修美
委員	山田 伸幸		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】 なし

【執行部出席者】 なし

【事務局出席者】

庶務調査係長	田中 洋子	議事係主任	岡田 靖仁
--------	-------	-------	-------

【審査内容】

- 1 視察報告について
- 2 最終報告について

午前8時30分 開会

伊場勇委員長 ただいまよりデジタル化推進特別委員会を開会いたします。本日の議題は2点ございます。初めに、9月19日にやまぐちDX推進拠点、Y-BASEに視察に行きまして、その視察報告について、報告書をまとめなければいけないので、その前に皆様の御意見を頂きたいというところがございます。デジタル化の拠点として、情報収集、相談、試行、学習などについて、県内で唯一と言っていいほど、情報をそこに集約しており、そこにいろいろな方が相談や支援を求めに来るということです。まず、拠点が無いと事が始まらないことについては、民間の方々がそこで積極的に取り組んでいらっしゃるということです。そして、いろいろな最先端の技術については、知っている知らないとでは、今後、大きな差が出てくるだろうと思います。使いこなす、使いこなせないも含めて、問題が出てくるだろうと思いますし、デジタル化の可能性

についても、とても感じたところでありました。できて3年ぐらいで相談件数が150件ということも、その報告事項に入れたいと思います。行った感想等でも結構なので、皆様からの御意見を頂きたいと思います。いかがでしょうか。

藤岡修美委員 民間事業者において工場の製品判定、つまりカメラを使って異常な製品を見つけるという流れはいいなと思いました。行政でいうと、地図情報にハザードマップ等々を重ねて、それぞれ災害ごとの避難路を手元のパソコンなりスマホなりで、市民が確認できるようなシステムができたらいいなと感じております。その辺もY-BASEは、何か投げかけがあれば、相談に乗ってくれるということですので、議会から行政に何か訴えてもいいかなという感覚でした。

山田伸幸委員 今の点は、あればいいなということですけど、問題は課題がいろいろあることです。一つは、そういう災害が起きたときに通信網が確保できるかという点ですね。停電も起きるであろうし、視界も閉ざされるという中で、そういうシステムを維持できるかという大きな課題があるかと思います。それと、最近とみに言われているのは、ほかのまちから来られて、道に不案内な人たちであっても、そういった機能が使いこなせるようなものでなくてはいけないと。特に外国人が来られたときに、そういった人も一緒に避難できるようなことも考えておかないといけないんじゃないかなと思いました。たしかに一つ一つの技術は、大変素晴らしいんですけど、それをどうやって我がまちに適用していくのか。正直に言って、私たちの知識では少し届かないところにあるような気がします。そういった面でいうと、市の若い人たちを中心にしたプロジェクトチームなどをつくって、ああいった素晴らしい技術をどのように市民のために活用するのかということが必要なのではないのか。そういった提言を議会としてできればいいなと。それが今の私たちの能力的にも限界かなと感じました。

白井健一郎委員 今回、Y-BASEに行きまして、まず、現在の段階のデジタルトランスフォーメーションというものが、どのレベルまで行っているのかということについて、大体見識を得ることができましたので、こういう機会をつくっていただいた委員長には感謝しております。そして、自治体がどういうことができるかという点に関しては、お二人の委員がおっしゃったとおりですけれども、このデジタルトランスフォーメーションというもので、例えば、一般の小さな商店を構えている人が業務の短縮や圧縮を行いたいとか、何か効率的に業務を行いたいとかというときに、デジタルの力を使えば、いろいろなことが可能だなということも分かりました。そういうことで、機会がありましたら、私も知り合いのそういった商店の方に紹介したいと思います。Y-BASEを利用すると幾らぐらい費用がかかるのかという点に関しては、まだ分かりませんので、その点は問題がありますが、そういう点で非常に身近に感じることもできたと思います。

恒松恵子副委員長 初めてお邪魔したんですけれども、施設の人の雰囲気がとてもよくて、相談しやすい雰囲気だなと思いました。ただ、どうしても企業向けの施設だなという印象が否めませんでした。企業向けといたしましては、商店でしたら顧客管理など、工場でしたらシステムの構築など、また、どの企業でもデジタルシステムによる省力化など、とても先進的な技術に取り組んでいらっしゃると思いました。県の施設ですので、市町が市町にとって使いやすいように働きかける権限はございませんけれども、もう少し自治体が相談しやすいとか、自治体向けの困り事に対応できるように、例えば先ほど山田委員もおっしゃいましたように、自治体が研修を受けられるようになれば、より進化するのではないかと思います。私たちは、今回学んだことを市民から相談、主に企業からなるろうと思いますけれども、こういう施設があるよと紹介できるように努めていきたいと思いました。

伊場勇委員長 それでは、言っていただいた内容プラスアルファでまとめさせ

ていただきたいと思えますけれども、この報告については……。

藤岡修美委員 委員長、副委員長に一任という形でお願いしたいと思えます。

伊場勇委員長 藤岡委員から提案がございました。よろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは正副委員長で作成させていただこうと思えます。それでは次の事項に移ります。議題の2番目ですが、最終報告と書かせていただきました。まず、私から申し上げますと、このデジタル化推進特別委員会というのが、一定の役割を終えたのではないかとこのころで提案させていただきたいと思えます。なので、この委員会の開催についてございまして、この委員会の目的は、デジタル化推進のための調査・研究・提案というところございまして。まず、一番の目的として達成できたところについては、議会へのタブレット端末の導入、ペーパーレス化、デジタル化等々で、一つ成果を残すことができたと思っています。令和5年6月に導入することができまして、まだ試行運用途中ではございますが、一定の流れはできていると感じているところです。この委員会を開催して感じたことについては、調査・研究はしっかり行ってきました。タブレット端末を導入するに当たっても視察に行きましたし、要綱をつくるに当たっては、事務局の力もたくさん借りてつくることができたんですけども、何かを提案する場合、その内容が常任委員会の所管と重なる部分もありました。それに加えて、審査するとすると、予算や決算が出てきたときの審査は、もちろん所管の常任委員会に委ねられるべきで、例えば、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会があったときは、そこで審査することができたんですけども、行政事務にあつては常任委員会の所管となるところもございました。今後は各常任委員会で深くしっかり掘り下げていただく。このデジタル化分野というのは、多岐にわたる分野でもございますので、各常任委員会にお任せしたいなというところ、また、議会側のデジタル化については、議会運営委員会でタブレット端末のことも含めて、さらに推進していただきたいという思いでございます。そういったこともいろいろ踏まえ

して、一定の役割を終えたのではないかというところで、改善する方向で、次のステップに行きたいと思っています。皆様の御意見も頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

藤岡修美委員 委員長が言われたように、本当にIT化に向けた取組というのは、各委員会で予算を見込んでの審査が妥当かなと思います。タブレット端末の導入については、議員もなじんでいる途中で、なかなかペーパーレスになりきれないところもあるんですけども、これは議員が慣れることによって進んでいくのではないかなと思いますし、通常の議会のIT化については、もう議会運営委員会でやられてもいいのではないかなという気がしております。

山田伸幸委員 IT化というのは言葉で見やすいし、いろいろな内容が世間一般に飛び交っています。その中から、私たちの議会の審査にどのように役に立つか。あるいは政策としてどのように取り入れていくのか、そういった点を洗い出すのは、今後の課題だと思います。残念ながら、私たちの委員会の能力では、そこまでたどり着けなかったというのが率直なところだと思っています。そういった意味で、もっと多面的な研修ができれば、私たち自身も研さんを積むことができたんですけど、その点では少し足りていなかったと感じています。先ほどから、各常任委員会、あるいは議会運営委員会というのが出ましたけれど、正直言って非常に難しい課題だろうなと感じています。たしかにいろいろなデジタル化というのは、時代から迫られている問題だと思うんですけど、その方向が常に市民の暮らしをよくしていく方向に向かうように、私たちの経験がそのように活かされるように、ここで学んだことを各委員会で生かしていくことが必要ではないかなと思っています。

白井健一郎委員 このデジタル化推進特別委員会の成したことというのは、先ほど委員長からありましたように、議員全員にこのタブレット端末を1台ずつ配布して、今まで議場で使っていた紙の代わりに、タブレット端

末を使って情報の出し入れをするということ、そして、それに対応する形で、市の執行部側もパソコンを議会に持ち込むようになって、その場でいろいろ調べたりすることによって、議論のレベルの質が一つ上がったということです。それが一つと、もう一つは、それを進める過程において、デジタルトランスフォーメーションと言いますが、あるいはスマートシティー化構想と言いますが、デジタル化が進むことによって、我々の生活は今後5年、10年でどう変わっていくのだろうかというところまで俯瞰するところまでできたと思っています。私はデジタルに関しては苦手なものですから、発言するたびに、この山陽小野田市の特に高齢者の方々に、デジタルにまだ完全にシフトできない方々の意見を代弁するような形で発言してきたんですけども、しかし、スマートシティー化が進めば、生活が便利になるということは間違いなくて、このユーチューブを見てくださっている高齢者の方々も、私の父母も80代ですけども、スマホに最近チャレンジしております。スマホというのは、一定の動き、一定のこういうときはここをクリックすればいいんだということが分かれば、そんなに難しくなく操作できるものですし、多くの方が生活に取り入れられていると思います。そういう形で、スマートシティー化というのが今後進んでいきますので、それは、このデジタル化推進特別委員会では、俯瞰することしかできませんでしたけれども、これからいろいろな常任委員会あるいは議会運営委員会で議論されていくものだと思います。

恒松恵子副委員長 議員に対して、このようにタブレット端末導入の機会は十分持てたと思っています。今後、市民生活の利便性を図ること、一方、議員はこのタブレット端末導入によって、特にデジタルディバイドといいますが、活用方法は皆さんそれぞれ異なっておりますけれども、基本操作については習得できたと感じております。今後は、市民の生活の利便性向上、一方で、デジタルに弱い高齢者などの生活にも配慮した審議については、各委員会、議員全体については、議会運営委員会で進めていけたらと思っています。一定の意義は果たしたと思っています。

伊場勇委員長 皆さんがおっしゃることは、大体似ているかなと思ひまして、ボトムアップをしっかりとしていく、そのきっかけもつくれたかなと、聞いていて感じることができました。この報告については、9月27日の定例会最終日に申し上げたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）報告については、正副委員長に任せただけならありがたいですけれども、それでよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）このようにデジタル化推進特別委員会を開催するのはこれが最後になります。皆様にはたくさん御尽力いただきました。いろいろ御意見を頂いて、しっかりと成果物を、タブレット端末導入というものをつくり上げてきました。皆様のおかげです。委員長として、この場をお借りしてお礼を申し上げます。事務局の方も大変お世話になりました。ありがとうございました。今後ともデジタル化については、進むべきところは、しっかりと推進していくことは、議会として必要なことですので、また、皆さん力を合わせて頑張ってもらいましょう。この委員会を閉じさせていただきます。皆さんお疲れさまでした。

午前8時48分 散会

令和5年（2023年）9月21日

デジタル化推進特別委員長 伊 場 勇